

水が澄む、人が住む



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市



加瀬

水処理センター



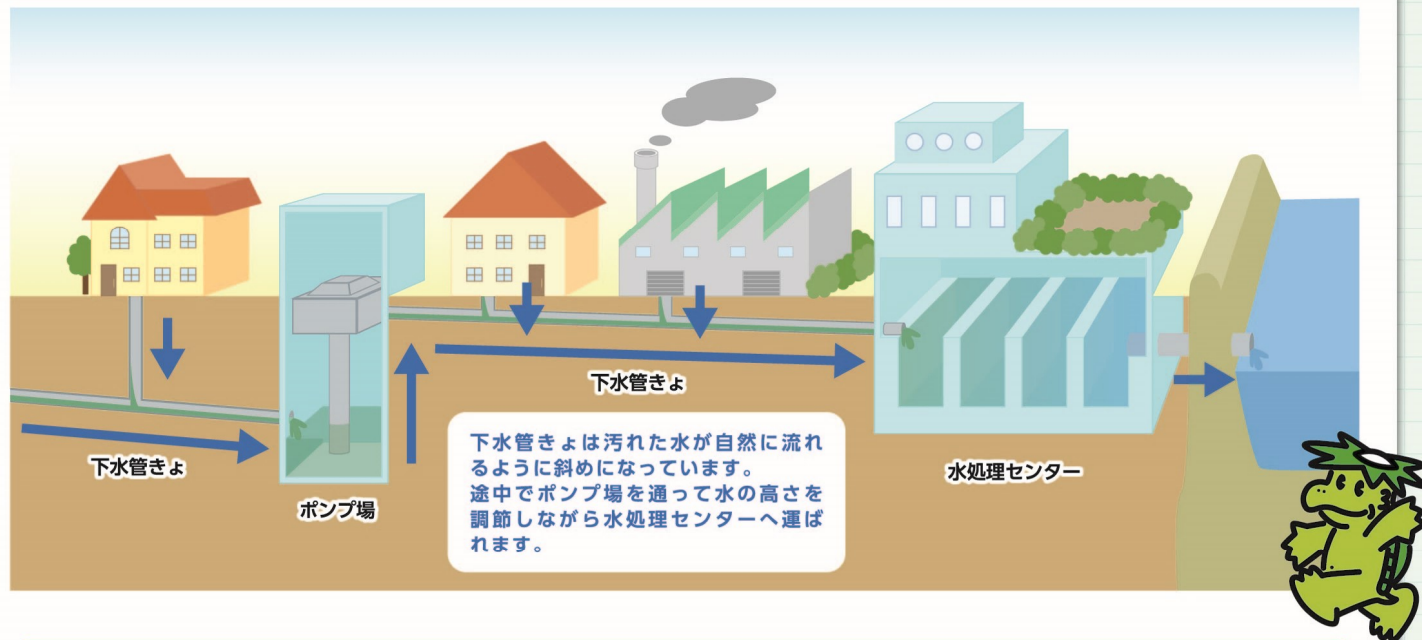
川崎市上下水道局
イメージキャラクター
カッピー

川崎市上下水道局

水処理センターとは

水処理センターとは、家庭や工場などで使用された**汚れた水**をきれいな水にして、再び海や川などの**自然に戻す施設**のことです。

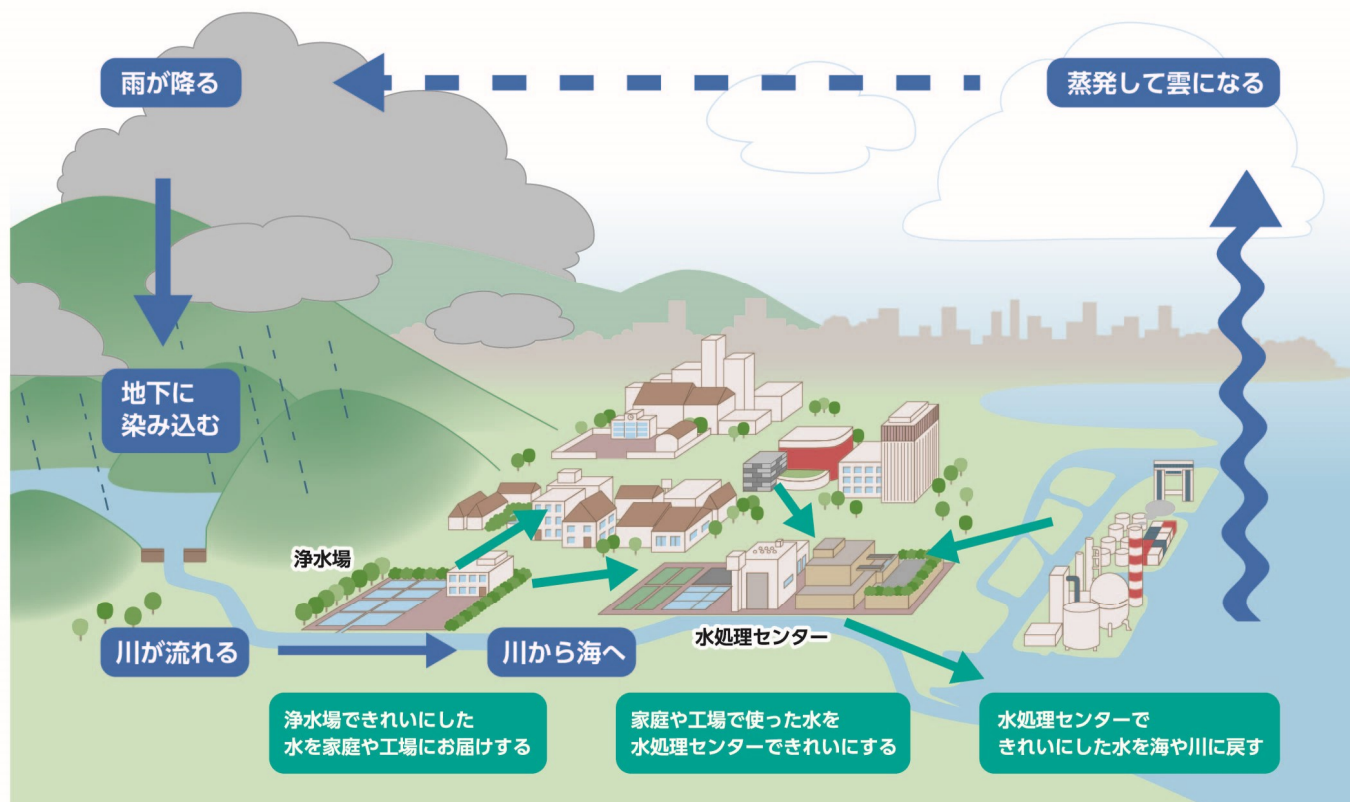
汚れた水は、下水管きょやポンプ場を通して水処理センターへ運ばれます。



水は循環しています

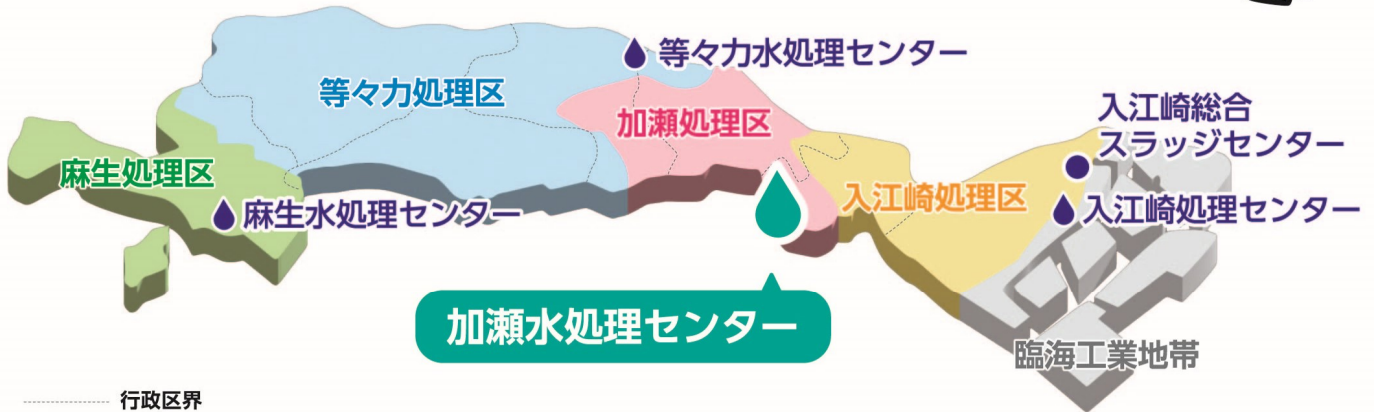
水は生命の源であり、絶えず地球上を循環し、私たちに多くの恵みを与えてくれます。

水処理センターは、汚れた水をきれいにして川や海に流すことで、**健全な水循環に貢献**しています。



加瀬水処理センターの場所

加瀬水処理センターは、幸区南加瀬の矢上川沿いにある水処理センターです。
幸区、中原区、高津区・宮前区の一部からなる区域の下水をきれいにしています。



加瀬水処理センターの平面図

加瀬水処理センターの敷地の面積は54,960㎡です。
北系、南系のそれぞれで汚れた水をきれいにしています。

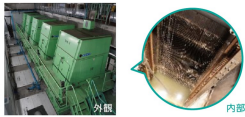
敷地は
東京ドーム
より広くて、

1日に処理できる水の量は
学校の25mプール
400杯分なんだ！



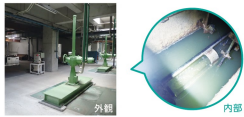
汚れた水をきれいにする工程

1 スクリーン



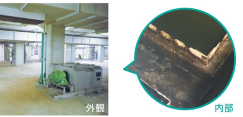
汚水に混ざっている紙くず、石、木片、プラスチックなどの大きなごみを取り除きます。

3 最初沈殿池



汚水中の細かいごみなどを沈ませ、上澄み水を反応タンクに送ります。

5 最終沈殿池

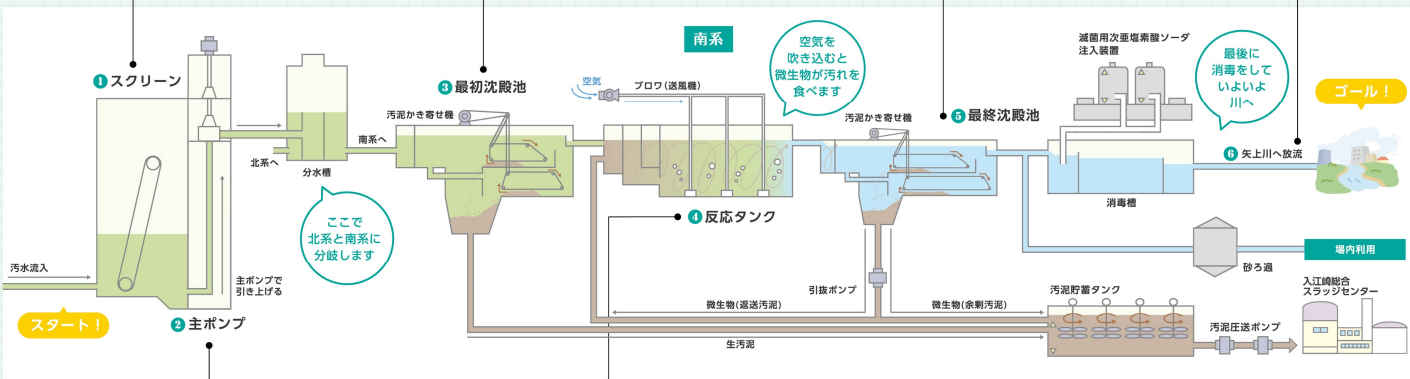


微生物(活性汚泥)を沈ませ、上澄み水を放流口に送ります。

6 放流口



最終沈殿池から送られてきた上澄み水は消毒槽で消毒された後、放流口から矢上川へ放流されます。



2 主ポンプ



スクリーンを経由した汚水を最初沈殿池へ送る設備です。汚水を高いところに持ち上げることで、自然流下での処理を進めます。

4 反応タンク



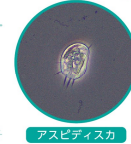
微生物(活性汚泥)の働きによって、汚れた水をきれいにします。

豆知識



汚水は微生物の働きによってきれいになります。

微生物は、顕微鏡で拡大しなければよく見えないほど小さい生き物ですが、汚れた水をきれいにするために大活躍しています。活性汚泥 1 ミリリットルの中に約 5,000 ~ 30,000 匹の微生物がいます。反応タンクで汚れた水と微生物(活性汚泥)を混ぜて空気を吹き込むと、微生物が汚れを食べて、水をきれいにしてくれます。微生物が弱ってしまうので、薬品を下流に流さないでね。



さまざまな微生物がいます！



こんな設備・施設もあります！



ブロウ

空気を反応タンクに送る設備です。この空気により、微生物が汚れを食べるようになります。



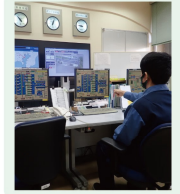
汚泥圧送ポンプ

水処理で発生した汚泥を入江崎総合スラッジセンターへ送る設備です。



脱臭設備

薬品と腐植質脱臭剤を利用して下水の処理過程で発生する臭気を取り除く設備です。



中央監視室

水処理施設の運転監視・制御を集中的に行っています。



汚れた水をきれいにするために、いろいろな人や機械が活躍しているんだね！



水質試験室

適正な水質管理のために、処理工程ごとの水の分析や、微生物(活性汚泥)の検査をしています。

土地の有効活用「加瀬ふれあいの広場」



加瀬水処理センターの南系の反応タンク及び最終沈殿池の上部は、**加瀬ふれあいの広場**として整備されています。

この広場は、**平常時には地域住民のふれあいの場**として利用されていますが、震災時などには一時(いつとき)避難場所となります。

加瀬水処理センター 施設概要

加瀬水処理センター

運転開始年月	昭和48年度 北系処理施設 平成2年度 南系処理施設(1/2)、平成10年度 南系処理施設(2/2)
敷地面積	54,960㎡
計画処理能力	168,900㎡/日
処理方式	(疑似)嫌気好気活性汚泥法
放流水域	鶴見川支流／矢上川
水処理施設(北系)	沈砂池2池、最初沈殿池8池、反応タンク16槽、最終沈殿池8池
水処理施設(南系)	最初沈殿池7池、反応タンク8槽、最終沈殿池8池

関連施設

ポンプ場	加瀬ポンプ場、天王森ポンプ場、渋川ポンプ場、丸子ポンプ場、 江川ポンプ場、久末ポンプ場、蟹ヶ谷ポンプ場
雨水貯留管	江川雨水貯留管(81,000㎡)、渋川雨水貯留管(144,000㎡)

ポンプ場



渋川ポンプ場の設備

下水管きょは、下水が自然に流れるように、勾配を取りながら埋められています。平地部など勾配が取れない地域では、中継ポンプ場で下水を汲み上げ、水処理センターまで下水を運びます。

雨水貯留管



江川雨水貯留管の内部

大雨が降ったときに、道路や家に水があふれないように、一時的に雨水を貯めておくのが雨水貯留管です。貯めた雨水は晴れた日に水処理センターで処理した後、川に戻します。

加瀬水処理センターのあゆみ

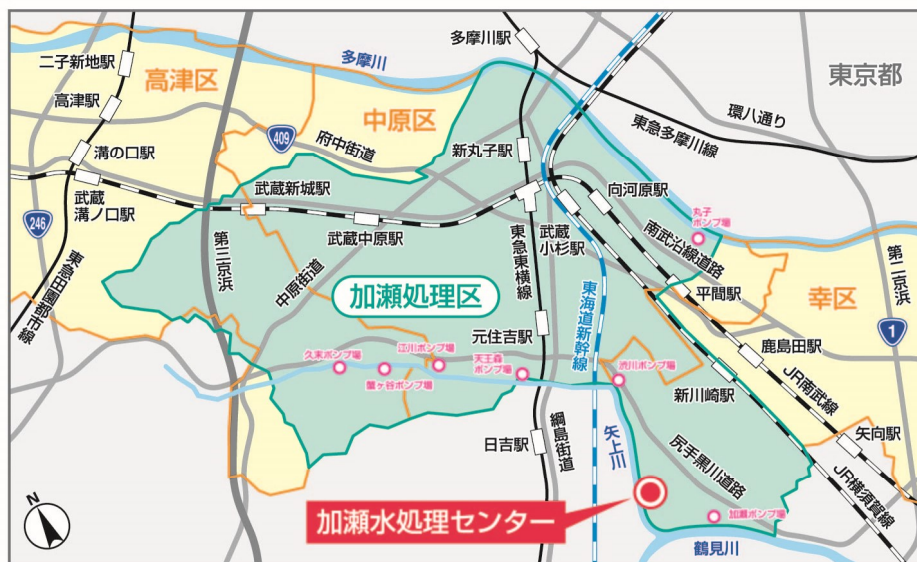
1961年(昭和36年)	加瀬ポンプ場(雨水)が運転を開始
1962年(昭和37年)	丸子ポンプ場(雨水)が運転を開始
1973年(昭和48年)	天王森ポンプ場(雨水)、加瀬下水処理場(水処理センター)、加瀬ポンプ場(汚水中継)が運転を開始
1975年(昭和50年)	渋川ポンプ場(雨水)が運転を開始
1976年(昭和51年)	渋川ポンプ場(汚水中継)が運転を開始
1977年(昭和52年)	丸子ポンプ場(汚水)が運転を開始
1988年(昭和63年)	江川ポンプ場(雨水)が運転を開始
1991年(平成3年)	久末ポンプ場(雨水)、蟹ヶ谷ポンプ場(雨水)が運転を開始
1995年(平成7年)	入江崎総合スラッジセンターが運転を開始
1997年(平成9年)	加瀬ふれあいの広場が開場
2001年(平成13年)	江川雨水貯留管が運転を開始
2004年(平成16年)	渋川雨水貯留管が運転を開始

加瀬水処理センター

〒212-0055

川崎市幸区南加瀬4-40-22

TEL 044-587-3000(代)



かわさき下水道広報施設『ワクワクアクア』の紹介



入江崎水処理センター内にある広報施設です。
「見えない下水道を探り水循環を考える」をコンセプトに、
実際の水処理の状況を見て体験し、水循環の中での下水道の
役割と大切さについて学習できる広報施設です。
見学は完全予約制となっています。予約方法等については
右側の二次元コードからご確認ください。

[詳しくはこちら！](#)

